

新	旧
<p>表紙裏 (3行目から)</p> <p>都内で結核と診断される方は、年間約1,500人おり、<u>潜在性結核感染症と診断される方も約1,000人います。結核は、決して過去の病気ではありません。</u></p>	<p><b>潜在性結核感染症の治療を開始される方へ</b></p> <p>潜在性結核感染症とは、結核菌に感染しているものの、結核の症状はなく、今後、結核を発病するおそれがある状態です。</p> <p>都内で結核と診断される方は毎年約2千5百人近くいらっしゃり、<u>潜在性結核感染症と診断される方も1千人程度いらっしゃいます。</u>結核は決して過去の病気ではありません。</p> <p>御自身のためにも、周囲の方のためにも、潜在性結核感染症の服薬治療を行い、発病のリスクを抑えることが重要です。</p> <p>このノートを活用して、医師、薬剤師、保健師などの支援者とともに確実な服薬を行い、潜在性結核感染症の治療終了を目指しましょう。</p> <div data-bbox="1464 890 1666 1114" data-label="Image"> </div>

P.1

治療

- ・下記の(1)、(2)又は(3)の治療を行います。
- (1) イソニアジド1剤を6か月又は9か月服薬
- (2) イソニアジドとリファンピシンの2剤を3か月又は4か月間服薬
- (3) イソニアジドが使えない場合は、リファンピシン1剤を4か月間服薬
- ・決められた期間、確実に服薬することが重要です。
- ・飲み忘れたり、自己判断で服薬を中断すると、発病を抑えられなかったり、薬が効かない菌(薬剤耐性菌)をつくってしまいます。
- ・治療には、結核医療費公費負担制度の対象になります。保健所が公費負担の申請窓口です。

服薬期間(月)	3	4	6	9
(1) イソニアジド	6か月又は9か月			
(2) イソニアジド リファンピシン	3か月又は4か月			
(3) イソニアジドが使えないとき リファンピシン				

1 潜在性結核感染症(LTBI)の治療

潜在性結核感染症(LTBI)とは

- ・潜在性結核感染症(latent tuberculosis infection:LTBI)とは、結核菌に感染しているが、結核の症状はなく、今後発病するおそれがある状態です。
- ・周囲に感染させる心配はなく、学校や会社を休む必要はありません。
- ・薬を飲むことにより発病の危険を減らすことができるため、服薬治療を行うことが重要です(発病の危険が全く無くなるわけではありません。)

感染と発病の違い

- ・感染:結核菌が体内に入っているものの発病していない状態です。人に感染させる心配はありません。
- ・発病:結核菌が体内で増殖し、身体に何らかの異常や症状を引き起こす状態です。病状が進行すると咳やたんの中に菌が大量に排泄され、感染拡大につながります。



治療

- ・原則としてイソニアジド(INH)1剤の服薬を6か月間又は9か月間行います。
- ・イソニアジドが効かない結核菌の場合には、リファンピシン(RFP)1剤の服薬を4か月間又は6か月間行います。
- ・治療は結核医療費公費負担制度の対象となります。保健所が公費負担の申請窓口です。
- ・潜在性結核感染症の治療では、決められた期間、確実に服薬することが重要です。
- ・飲み忘れたり、自己判断で服薬を中断すると、発病を抑えられなかったり、薬が効かない菌(薬剤耐性菌)をつくってしまいます。

服薬期間(月)	2	4	6	9
イソニアジド 又は リファンピシン				